

- ・ 巻頭コラム(杉浦良)
- ・ お知らせ(中学生職場体験実習、市議会議員の皆様視察)
- ・ 四国学院大学研修レポート
- ・ スタッフ雑感
- ・ ご協力者名簿／編集後記

NPO法人 太陽と緑の会

かわら版

214号/2026.8

Since 1984

「インクルーシブということ」

杉浦 良

徳島新聞コラム「鳴潮」に、気になる文章を見つけました(2026. 6. 30)。

私が勝手に要約すると、こんな感じになります。

「学生時代、バイト先の塾で、聾学校でなく地域の学校に通う、聴覚障害の女子中学生がいた・・・障害の有無に関係なく、みんなと一緒に学ぶインクルーシブ教育などという言葉が無かった頃だ・・・周りの生徒は自然に彼女を支えるようになった・・・2022年に国連の障害者権利委員会が「分離教育は差別である」と勧告したが、障害特性に応じた教育が受けられるとの期待もあり、特別支援学校や特別支援学級の人数は増え続けている・・・ただ学校や環境を分けることで障害者の存在が見えにくくなり、それが理解を遠ざけるといった指摘も無視できない・・・先日特別支援教育に関する方針案がまとまった・・・多様な子供同士がお互いを知ることにつなげられないか・・・「障害者は将来的に、健常者と関わることなしには生きていけませんから」生徒の母親が、そう塾長に願い出たそうだ・・・」

私はこれを書いたコラムニストの経験と今日的課題、そして本質的テーマをリンクさせ展開する、感性の鋭さと上質さを感じます。そして、このことにまつわる人間の心の複雑さと、そこに横たわる深き闇も感じさせられます。

徳島市名東2丁目にある地域活動支援センターⅢ型「ほっとハウス」の松本理事長から、以前、次のような話を聞かせてもらいました。

「・・・この作業所を始めようと思ったのは、ここに通うメンバーさんに作業が出来るようになったり、給料をたくさんもらえるようになったりすることよりも、地域の人たちにこのメンバーさんを知ってもらおうと思ったから・・・学校や老人ホームや色々な行事に、このメンバーたちが参加して・・・手話コーラスや踊りを見てもらい、知ってもらって・・・もしも、このメンバーが誰かにいじめられるようなことがあったら・・・『あの子は、ほっとハウスの子や・・・いじめたらあかん』・・・そう言ってもらえるような地域に、ここをしたいと思ったんよ・・・」

様々な作業所や事業所がありますが

「支援学校を卒業した後、一般就労できれば良いけど・・・出来なければ・・・毎日通って作業できる場所が欲しい・・・」

「ここで訓練して、いつか一般就労できるようになって欲しい・・・」

「自分の小遣いくらいは自分で稼げるようになって欲しい・・・」

「家に閉じこもるのではなく、毎日喜んで通える場所であって欲しい・・・」

「今まで出来なかったことが、少しずつでも出来るようになって欲しい・・・」

「大人として、障害があっても自己実現できる場所であって欲しい・・・」

「親が死んでも、一人でやって行けるようになって欲しい・・・」

そんな要望や願いを聞かせてもらったことはありますが、松本さんのような思いを聞かせてもらったのは、めったにありません。

「知らないことが一番怖い・・・偏見や差別は・・・知らないことからどんどん膨らむのよ・・・」
そんな言葉もよく聞きます。同じ障害の、同じ程度の、同じ境遇の、同じ価値観の・・・その中に入り込むことの心地よさを思うと・・・違う障害の、違う程度の、違う境遇の、違う価値観の・・・そんな人たちが混じることの不快さと苛立ちを、私も感じないわけではありません。

ただ歴史を振り返れば、ゲルマン（アーリア）民族が・・・WASP（White（白人）Anglo-Saxon（アングロ・サクソン系）Protestant（プロテスタント）が・・・漢民族が・・・ユダヤ民族が・・・イスラム社会が・・・そんなくくりで語られるその向こうに、色々な人たちが、それなりに穏やかに暮らせる将来は、なかなか見いだせないのでは・・・そう感じる私がいいます。



鮎喰川クリーンアップ2026

平成13年(2001年)から毎年行っているごみゼロ活動の一環として、今年も鮎喰川河川敷(鮎喰川西岸道路中鮎喰橋から北500mまで)のクリーンアップを実施。

今年は4月5日、12日、5月5日、10日、6月1日の5日間に渡り、行いました。

少し前まで、障害者の作業所は迷惑施設などと呼ばれた時代がありました。地域の方々にとっても良いイメージを持ってもらうために、土手の草刈りをしながら、捨てられた空缶やペットボトルも回収する活動を、30年ほど続けてきました。

昔と比べれば捨てられたゴミは激減し、不法投棄も圧倒的に少なくなりました。有難いことです。

お知らせ

中学生職場体験実習

5月29日、入田中学校(徳島市)から3年生1名、2年生1名が、太陽と緑の会リサイクル作業所に職場体験実習に来てくれました。一般家庭にお伺いしてお品物を頂く作業、頂いたお品物を仕分けする作業、リユース商品の入れ替えや陳列の作業などを体験して頂きました。気温は高かったものの風が吹いていたので、比較的過ごしやすくて幸いでした。お疲れ様でした。

入田中学校からの当会への職場体験実習は、平成19年から令和元年にかけて9回行い、66人の中学生の皆さんが参加して下さいました。第1回目の実習に参加して下さいった9名の生徒さんは33才になっており、改めて月日の流れを感じます。新型コロナウイルスの流行を機に職場体験実習もお休みとなっていました。今回7年ぶりの受け入れとなりました。



サクランボ 頂きました

一年間ボランティアとして28年前に来てくれたEさんから、山形名産のサクランボがなんと2回も送られてきました。

(社)日本青年奉仕協会から当会に、1年間ボランティアとして活動参加してくれました。若き二十歳の青春を徳島で過ごした日々。長き人生で、不要な経験など一つもない・・・そんなことをふと思いました。幸多き事を願います。有難う御座いました。

お野菜・お菓子 頂きました

いつも当会にお買い物に来て下さっているYさん、Wさんから、お野菜を頂きました。いつもありがとうございます。

同じくお買い物に来て下さっているKさんからは手づくりの梅干し、お菓子などを頂きました。

他にも多くの皆様から、お野菜、飲み物、お菓子などを頂きました。

有難うございました。





市議会議員の皆様視察

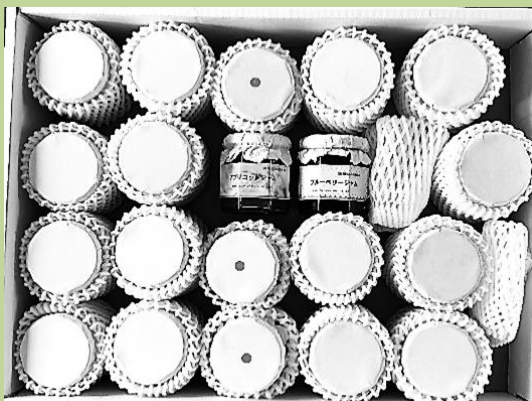
7月12日、昭島市(東京都)市議会議員の青山さん、林さんとエコメッセ理事長の大嶽さん、そしてナビゲーター役の饗場さん計4名が上勝町を視察された後、当会に来られました。

事故渋滞で時間が押し迫った中、沢山の質問を受けました。暑い最中、エアコンなしの見学をしていただいた皆さん、ご苦労様でした。当会の機関紙や米田君の詩集もお渡ししました。少しでも現場のリアリティを持ち帰っていただければと思います。

作業所連絡協議会

6月20日、障害者就労継続支援B型事業所「きのこハウス」にて、徳島県障害者地域共同作業所連絡協議会総会を行いました。16年程前に作業所見学をさせていただいた「きのこハウス」の横田理事長が30年の歴史を振り返り、新しく所長となられた田中さんは、インクルーシブ社会の必要性について語られました。

各作業所・事業所からの報告は、営利法人の運営するB型事業所の問題や、それに伴うB型事業所に対する厚労省の政策変更、ホルムズ海峡紛争の影響で内職作業が持続的に続けられるのか？といった不安や、地域活動支援センターⅢ型作業所ではメンバーの減少と高齢化、新規メンバー参加がないといった現状など、様々な問題が出されました。大変ながらも、横に繋がることの大切さを思います。



自家製ジャム 頂きました

当会の活動を会員として、長年ご支援下さっている吉野川市のHさんご夫妻から、今年も手作りのブルーベリージャムをたくさん頂きました。ご主人が栽培されているブルーベリーを朝摘んで、奥様がジャムにされているとのこと。今年はそれに加えてアプリコット(あんず)ジャムも頂きました。

手間暇かけて作られた貴重なものを、いつも本当にありがとうございます。

頂きました

フードバンクとくしまさんから、備蓄用パンと天然水をたくさん頂きました。

地域活動支援センターⅢ型の「ほっとハウス」、就労継続B型事業所の「ハートランドあっぶる」と「きのこハウス」にも、おすそ分けしました。

当会のメンバーにも「フードバンクとくしまさんから頂きました！」と一人一人手渡ししました。有難うございました。

四国学院大学 研修レポートより

共に生きる場をつくるということ

2026年2月22日、NPO法人「太陽と緑の会」を見学させていただいた。見学を通して私は、授業でも学習したノーマライゼーションの本質について改めて深く考えさせられた。

私は、これまでパンなどの製造・販売をしている、いくつかの就労継続支援B型事業所（以下、B型事業所）や就労継続支援A型事業所（以下、A型事業所）に足を運んだ経験がある。そのような場所では、障害のある人に他の職員が付き添いながら仕事をしており、役割の違いが比較的はっきりしていた。そのため、「太陽と緑の会」の空間は、これまでの私の経験とは大きく異なる印象を受けた。

施設に入りますまず感じたことは、スタッフとメンバー、そしてお客さんとの区別が一見して分からないということであった。杉浦さんは、お話の中で障害のある方を障害名や「障害者」という言葉で表現せず、「メンバー」という言葉で表現されていた。私自身これまで「障害」という言葉を特別疑問に思うことなく使ってきた。しかし、「メンバー」という言葉には、支援する側・される側という上下の関係ではなく、同じ場を共につくる一員、仲間という対等な響きがあると感じた。このことは、「メンバー」という言葉が単なる言い換えではなく、杉浦さんやスタッフの方々の日々の関わり方そのものを表していると感じ、最初に抱いた誰がスタッフで誰が利用者なのか一見して分からないほど自然な関係性が築かれている印象と結びついた。

また、杉浦さんは、「人に関わることはサービス提供ではない」と強調されており、私はこれまで支援とは「何かをしてあげること」「不足している部分を補うこと」だとして捉えていたように思う。しかし、「太陽と緑の会」で実践されている関わりは、そのような一方的なものではなく、共に時間を過ごし、共に働き、共に地域の中で生きていくという双方向の関係であった。実際に施設内でのメンバーの作業内容は、掃除やごみの収集、品物の磨きなどから、接客やレジまでと非常に幅広く、単に能力の高低で役割を固定するのではなく、それぞれの特性や意欲に応じて活動の場が広がっている点が印象的であった。そこには、メンバー一人ひとりの可能性を大切に、「決めつけ」によって閉ざさない強い姿勢が感じられた。杉浦さんは、B型作業所へと移行する選択はしていないと話していた。制度上は、能力に応じてA型・B

型へと振り分けられているように見える。しかし、実際には、地域性や事業所の数、移動手段といった環境要因が大きく影響しており、私の生まれ育った地域を振り返ってもそのような理由からA型で働く能力はあってもB型にとどまっている人も少なくない。つまり、障害のある方の労働において「能力」という言葉は非常に一面的であると私は考える。その点、「太陽と緑の会」では、制度上の区分にとらわれるのではなく、実際の姿や可能性、本人の希望等を見ながら役割がつけられている。

さらに、「太陽と緑の会」は地域とのつながりを大切にしており、障害のある方が地域の中で孤立することなく過ごすことのできる働く場、日中活動の場に加え、生活の場までもが整えられていた。活動を通して地域住民と関わる機会を積極的に持つことで、お互いに無意識のうちに持っている偏見が解消され、障害の有無を超えた自然な交流が生まれているのではないだろうか。その結果、「太陽と緑の会」は地域から親しまれて愛される存在になっているのではないかと思う。

以上のように、「太陽と緑の会」では、「支援する側」と「支援される側」という固定的な関係ではなく、一人ひとりを対等な存在として尊敬しながら共に生活していた。また、制度上の区分や能力という枠組みによって人を判断するのではなく、その人の可能性や背景に目を向け、「環境」を整えることで力を引き出そうとする姿勢が実践されていた。さらに、仕事を通して様々な人と普通に関わり、無意識の偏見を解消することは、お互いを認め合い、相手のことだけでなく、自分のことも好きになることにつながると思う。今回の見学を通して、将来子どもの教育に携わる立場として考えさせられることが多くあった。まだまだインクルーシブ教育とは言えない日本の教育現場において、「できる・できない」や診断名によって子どもを捉えてしまう危険性は常に存在する。しかし、子ども一人ひとりの可能性は、環境や関わり方によって大きく変わる。本来のノーマライゼーションの理念は、単に支援体制を整えることではなく、障害の有無にかかわらず共に学び、共に育つ環境をつくることにあるのではないだろうか。つまり、誰もが自然にその場に存在できる状態を実現することこそが本質であると考えている。だからこそ、目の前の子どもを1つの枠に当てはめるのではなく、その子自身を理解しようと努める姿勢が常に必要であることを改めて実感した。今回の見学での学びを活かし、常に自身の成長を促進していきたい。（四国学院大学3年 Y.M.さん）

スタッフ雑感

今年も一段と暑い夏が続いてます。
毎年クーラーの効いてない店内に驚かれるお客様も多いかと思えます。

この時期になると、よく来ていただいてお客様の足が遠のき、お見かけしなくなるので心配になるのですが、これも太陽と緑の会の毎年恒例の現象となっています。

涼しくなって来ると足を運んでくださるお客様も増え、「暑くてよう来なかったわ、またばちばち来るでな」と言う言葉にほっと胸を撫で下ろします。

当会をご利用、ご支援いただいているお客様方に本当に感謝を申し上げます。

今回は少しここで作業してるメンバーさんについて紹介させていただきます。

大食いのFさん

食べることが大好きなAさんです。

大好きな食べ物はカレーライスです。

いつもFさんの食べる量にみんな驚いています。

それと戦艦や戦闘機も大好き。

「ポテトチップスのパッケージが白黒になりました」

「護衛艦の改修が〇〇年に終わります」

ジャンルはかなり偏ってますが、いつもAさんの印象に残ったニュースを自分から報告してくれて、私の簡単なニュースアプリのようになっています。

この毎日の何気ないやり取りにほっこりとした気持ちになります。

そんなAさんですが瞬間的な仕事ぶりには目を見張るものがあります。

ただ、気が付いたら行方不明(注)になることもちらほら。

(編集部注: トイレにこもっていたり、更衣室でおやつを食べていたり、作業所敷地内のどこかでくつろいでいます)

お話大好きなBさん

色んなお客様に人気なBさんです。

お客様の話の内容などをよく覚えていて本当にいつも感心しています。

「昨日動物園に行ってきた」

「〇〇日に〇〇さんと遊ぶよ」

2階に上がると手を止めてひたすらお喋りのBさん。

目が合い動き出すBさんの手。

とはいえ目の届く場所ではしっかりと作業してくれるBさん。

今後お喋りしながら手も動かしてくれるようになってくれることを期待しています。

そんなBさんも最近は回収の作業も任されるようになり大活躍です。

その一方Bさんの姿を見なくなったお客様から「Bさんがいないと寂しいな」とのお言葉が。

本当に人気者なBさんでした。

(文責:専任職員 S)

当会の活動をご支援下さった皆様

§ 2026 年 5 月 1 日～2026 年 7 月 21 日 § (紙面の都合上、敬称は略させていただきます)

ご寄付を下された皆様

匿名、河野、吉川、米田、柳澤、西谷、都築、匿名(郵便振替口座)武田、菊池

品物を持って来て下さった皆様(郵送含む)

〇徳島市〇瀧本、藤井、岩佐、豊田、西、橋本、滝本、豊崎、廣沢、井形、橋本、富永、福井、三木、西本、藤田、多田、青木、吉富、小倉、須見、武市、岡本、内藤、窪川、白木、松本、寺奥、野村、LOVE、下元、吉岡、上原、西名、塩田、井内、松浦、竹岡、川野、井関、宮本、長船、福山、丸岡、植田、黒嶋、カワノ、浅尾、篠原、森、只津、三浦、荒木、益田、森兼、海東、上原、黒田、泉、川人、金本、藤岡、井出、団、浜田、山口、近藤、山下、小笠原、居敷、今川、布川、原田、島田、寺奥、山田、吉永、河村、佐野、盛飯、逢坂、森井、元淵、多田、柳下、中西、佐々木、正木、加本、福永、山村、浅香、前山、森川、林、小笠原、藤井、白桃、平岡、田中、近藤、清水、村上、岩本、松谷、新田、木下、竹内、松尾、岡本、大和、中木、中山、井貝、磯口、コンシ、山室、大林、庄地、畠、瀬川、阿部、佐古、岩佐、神山、服部、月岡、河野、森口、山上、篠原、古高、トヨネ、中野、大上、宮内、早藤、西原、藤田、大島、照本、吉岡、笠井、原田、住友、大塚、横尾、高岡、斉藤、石井、長倉、遠山、原田、郡、上山、木村、藤居、金井、浜口、和西、相原、福田、イハラ、平山、佐藤、兼松、田所、武岡、以西、廣崎、芦田、損害保険ジャパン、西岡、四宮、嵯峨山、工藤、トダ、土内、柳川、白下、薩山、尾形、小笠原、牧岡、大川、安芸、清水、元木、名田、中、播磨、森本、井内、井澤、島田、能田、平田、山本、酒井、高開、谷崎、香川、高野、カワハラ、江口、川口、寺井、古川、坂

口、神山、西野、佐々木、佐光、奥村、横手、塩田、木下、河内、金城、津田、三好、野中、田村、松本、川田、下元、柳生、片寄、森泉、桑原、細川、土居、金井、津田、宇山、下元、高橋、美馬、阿部、橘、近久、原、中野、笠井、高岸、端野、大島、中村、福永、大川、丸尾、下元、米田、榎本、内山、中平、才木、浜野、石橋、粒山、枝澤、高野、上原、松浦、大野、吉崎、若林、山田、大西、安岡、熊田、藤田、団、天羽、イグチ、磯口、ヒロザワ、和西、新見、東口、武田、夕夕、森本、中野、安永、井川、大平、黒川、姫野、榎本、元木、岸、浮津出口、河野、後藤、川人、角、藤浦、津嘉山、山崎、坪井、吉田、若林、森兼、古川、大野、斎藤、藤永、杉浦、藤森、藤井、堀川、鈴江、大島、若松、谷、出口、田原、榎内、松尾、椋本、上田、木村、早瀬、徳永、武市、盛山、重本、伊丹、城尾、大磯、広崎、岩谷、金本、樽石、高野、大西、島田、丸宮、大石○阿南市○原、山村、榎野○鳴門市○鈴江、馬居、東條、三井、土橋、森、金沢、小川、高田、大西、田中、魚井、谷口、井上、眞田、橋本、近藤、吉川、山本、宇津○石井町○藤重、阿部、山口、酒井、川田、森、関本、福島、平野、斎藤、武知、鉾田、児島、セキ、林、秋月、辻、坂東、河崎、芥川、武田、小西、吉田○美馬市○南、福本、福山○小松島市○矢野、林、伊川、吉村、阿部、津川、飛田、船越、古田、山本、竹田○北島町○角田、舟越、大村、佐川、わき、石山、敷原、萩原、谷山、大島、美條○神山市○國本、岩根○吉野川市○角野、田村、松本、中窪、中西、那須、坂井、森田、平島、松本、那須、大村、後藤田、長谷、高尾、守松○上板町○井上、北村、豊原、井村、後藤、柳○岩根、中原、上田、國本、織田○板野町○陸山、谷本、沖津、明石、中村、藤井、高田○藍住町○富士鷹、齋藤、越智、山本、四宮、斎藤、三好、佐藤、阿部、井上、横田、市瀬、熊本、島本、宮北、陸山、亀谷、斎藤、生田、岩谷○佐那河内村○村本、青木、西條○東みよし町○堀川○那賀町○百田○松茂町○佐藤、阿部、松賀、細澤○阿波市○井川、猪尾、東條、森本、尾形、大本、櫻井、妹尾○兵庫県○寺内、船本○愛知県○松浦○岡山県○高橋○高知県○松岡○香川県○饗場、木村、井上、松村、柊、木村、富島○山形県○遠藤○京都府○木村○群馬県○山本○埼玉県○本郷○その他○関口

品物を引き取りにお伺いさせて頂いた皆様

○徳島市○清重、大山、後藤、加地、鈴木、金品、渡辺、吉内、下泉、井上、久次米、中西、木内、谷越、浮津、福田、工藤、磯塚、山西、正木、吉川、廣瀬、宮田、正城、電谷、桑村、山上、藤田、清家医院、三宅、西野、宮崎、松村、川野、清重、丸山、株木、出口、高橋、大上、鈴木、益田、久次米、大西、高岡、大櫛、木内、佐川、大草、石原、青木、福井、小倉、立岩、小西、幸田、吉本、浅川、小松、中、柳澤、峯、河野、大櫛内科、廣瀬、玉置、富島、戸田、加藤、新川、中島、小野、西谷、川人、柴田、山口商店、橋本、宮越、村上、横田、石原、松浦、朝日、大北、伊川、高開、前川、加納、川崎、幸田、山西、白川、新居、増田、畑中、佐藤、穴吹コミニティー、佐川、武岡、電谷、後藤田、児玉、穴吹ハウジング、川崎、スギノ子保育園、前田、三木、畠山、松岡、山西、阿部、宇治製菓、幸田、藤浦、川村、瀬部、庵本、岡本、森北、タオ、乾、三橋、岡久、藤田、米原、市民協働課、近藤川原、山口、大坪、西田、島本、金西、多田、内田、青木、津田、岸○石井町○岸、谷村、廣澤、内村、木下、中木、小川○北島町○今川、中野○小松島市○中村、木下、白川、中村、立石○藍住町○イエトメ、桑原、西根、田中○板野町○和田、近藤、中島○鳴門市○三谷、久龍、クリス、岡、西條、西村、唐木、米田、齋藤○吉野川市○中川、竹澤、坂野、中村○上板町○川田、飯田○松茂町○菊本、岩田

編集後記～自分の人生を歩いていく

毎朝、新館2階の女性用トイレを掃除してくれている、レジ担当メンバーのAさんが、少し困ったような表情で相談に来ました。床排水のフントラップの水が流れなくなったようです。

「以前詰まったときに、杉浦さんがやっているのを見たことがあったから」と、フントラップの皿を外して、ゴミを取り除くところまでやってくれていました。

中を覗いてみると、鉄製で釣鐘状のフントラップワンが錆びついて固着していました。本来は取り外しができるのですが、びくともしません。

錆をこそぎ落として、フントラップワンがスムーズに脱着できるようになり、無事水も流れるようになりました。

スタッフが気づかないことをメンバーさんが気づいてくれる。太陽と緑の会では当たり前ですが、指導する側される側、支援する側される側という、立ち位置が固定した関係の中からは生まれにくいものかもしれません。

作業所に通い始めて30年、今ではレジの作業やパソコンの入力作業を中心にいろいろな作業に主体的に取り組んでくれているメンバーのAさんですが、Aさんの現在の姿は、教育、指導、訓練の成果かと問われれば、それは少し違うように思います。

「教育、指導、訓練によって、少しずつ力をつけ、できなかったことができるようになる」といったストーリーは、一見もっともらしく思えますが、現場の実感とは違う、というのが正直なところです。

「地域社会の中に存在し、世間に対して開かれていて、少しでも困っているところもあって、お子さんから高齢の方や外国人の方まで、幅広い一般市民の皆様と日常的に関わりがある場所で、自分にできることをやり、できないことは助けてもらうという関係性の中で、様々なハンディをもったメンバーや職員、ボランティアと共に働く」という営みの中で、AさんがAさんの人生を、悩み、苦しみ、壁にぶち当たり、折り合いをつけながら、歩んできた結果が現在の姿、ということなのだと思います。

今の自分にできることを、自分のペースでやっていくことで、その人なりに立っていく。

「できなかったことができるようになる」というのは、その人なりに立って歩いてきたことの結果にすぎず、決して目的ではありません。「できるようになること」を目標として強調しすぎると、「できないこと」「できない自分という存在」がネガティブに受け取られてしまう危険性が生じます。

階段を上るようにできることが少しずつ増え続けていく、ということは、現実的にはありません。それまでできていたことができなくなる、ということもありますし、老いを迎えるようになると、むしろそれが日常になってきます。

「困難に負けずに」「ハンディを乗り越えて」といったフレーズを耳にすることもあります。が、(当事者の方が自ら発する場合は別として)誰の目線で言っているのだろうかと思うことがあります。

困難には負けてはいけないのか。ハンディは乗り越えなければならないのか。それは他者が決めてよいことなのか。

メンバーさんの人生はメンバーさんのものであって、職員のものではありません。

「教育、指導、訓練」という言葉には、する側とされる側との間に明確な区別があり、いかなる美辞麗句を散りばめても、上下関係が介在してくる可能性は否めません。そこに危うさが存在します。

様々なハンディを持ったメンバーとの関わりは、「寄り添う」とか「共に歩む」といった生半可な言葉ではすまされない、互いの全人格がぶつかり合うギリギリの瞬間も存在します。自分だけ安全地帯にいて、高みからあれこれ言ったりやったりするのは、「専門性」という名のプライドも保たれて楽かもしれませんが、そのような狡さは、こちらが気付いていなくても、すぐに見抜かれてしまうものです。

(文責:小山)

NPO法人 太陽と緑の会

私たちは、「人も物も活かされる街づくり」をテーマに、ハンディのあるなしに関わらず「地域の中でその人がその人の足で立っていけること」を目指し、様々な方々(市民、ボランティア、行政)の支えを頂きながら土、日を含めた日常活動を行っています。

これは、日本の次世代型ソーシャルアクションモデルになると考えています。このような活動のあり方により、徳島の将来や日本の未来が、幸多く豊かであることを願っております。

発行:NPO法人 太陽と緑の会

〒779-3120 徳島市国府町南岩延 107-1

TEL・FAX 088-642-1054

代表理事 杉浦 良 編集 小山 隆太郎

ご協力者名簿作成担当メンバー 岡田

宛名シール添付担当メンバー 堀

製本・発送作業担当メンバー 岡田 福住

年会費：正会員 1 万円 (総会議決権)

準会員 1,000 円 (機関誌発送のみ)

郵便振替口座

01620-8-44703

加入者名：特定非営利活動法人太陽と緑の会